



Amazing Grace

Oct.2011 Vol.8-2

義なる神

暑かった夏が過ぎ、朝夕涼しさを感じる秋になりました。田んぼの上を渡ってくる風も実りの秋、収穫の秋の香りに変わりましたね。

今年は放射能汚染の問題がありいつもとは違う、複雑な心境で実りの秋を迎えました。しかし、収穫のときは、美味しいものが食べられるばかりではなく、苦勞して作物を育ててきた労がむくわれる喜びのときに、変わりはありませんね。

聖書には、おいしい果物も畑で取れた野菜も、神が人のために造られたとあります。すべての植物、すべての動物、そして人間をも造られました。

ところが、人間を造られた神を忘れた私たちは、昔から人間の手で造った神々を信仰してきましたので、とかくすると人間の知識の範囲内で考えることが出来る神を想像します。

しかし、聖書に示されている神は万物の創造者、全能の神で、私たちの頭で測り知ることができないほど、大いなる方です。

聖書には「神は愛なり」という言葉があります。私たちを造られた方ですから、神は私たちを愛していてくださるのです。私たちを愛していただきますが、罪は絶対に容認されない義なる方です。神は義をもって人間をさばかれるお方ですから、私たちは神を恐れ、正しい人生を送らねばなりません。

「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」

ヘブル人への手紙9章27節

神が義であり、さばかれるお方であることを知るとき、私たちはどうしても、罪を悔い改めてイエス様を信じなければなりません。教会の十字架は飾りではなく、あなたのために罪を背負い、身代わりとして命を捨ててくださったイエスの愛を知らせる十字架なのです。そのことを信じるだけで人は救われるのです。

秋の夜長は、人について、神について、罪について考える良い機会ですね。

聖書には、どのように書かれているのか知りたい方は、どうぞ教会においでください。

(T.Y)

日本キリスト教会連合
結城福音キリスト教会
結城市大字結城603
0296-33-4359

<http://www.church.ne.jp/yuki/>

健康スペシャル

「皮膚は大切」

- 1、皮膚科といえば、まずはこれ～
- 2、聞いたことはあるけれど～
- 3、皮膚科といえども怖い病気～

10月30日(日)13:30-15:00

池田雄一先生 自治医科大学皮膚科

どうぞお気軽にお越しください

聖書豆知識

◎「苦しみ」と向き合うヨブ『ヨブ記』へのご案内

十月に入りました。十月は一名「時雨月」とか。色づいた木の葉に秋の深まりを感じますね。そして、2011年もあと二ヶ月ちょっとになったことに驚かされます。少し早いかもしれませんが、この一年をふりかえって、それを漢字一字で表してみると「災」あるいは「苦」ということになるでしょうか。

そう、決して忘れることのできない3.11の東日本大震災ですね。一多くの方々が、愛する人々を失い、家を失い、仕事を失い、故郷を失い、すべてを失いました。被災された方々の心に今なお、深く大きな悲しみと痛みがあることを覚えます。神のあわれみと慰めを祈るものです。

実は、聖書の中にも、今回の被災者の方々と同じような「苦難」「苦しみ」に出会った人物がたくさん登場してきます。その代表格がヨブです。

旧約聖書『ヨブ記』は義人ヨブ、神に対しても人に対しても正しく誠実に歩んでいたヨブが、突如、苛酷過ぎるほどの、しかも理不尽な苦難に襲われるところからスタートします。彼は、一日のうちに全財産を失い、七人の息子と三人の娘を失います。さらに彼自身は、全身悪性の腫物で苦しめられ、土器のかげらで自分の身をかきむしらざるをえない状態におちいります。あまりの悲惨さに彼の妻が「それでもなお、あなたは自分の誠実を堅く保つのですか。神をのろって死になさい。」とすすめるほどです。

ヨブの友人たちが彼を慰めようとやってくるのですが、正しい者がなぜ、いわれもなき苦難を受けるのかということをめぐる、ヨブと激しい論争になります。友人たちは「応報思想」（「善」を行う者にはその報いとして繁栄と祝福が与えられ、「悪」を行う者にはその報いとして災いと呪いが与えられるという考え方）に基づいて、ヨブの苦難は「悪」に対する報いだと主張するのですが、ヨブは承服できません。ヨブは、人間の理論や思想で苦難の現実を覆い隠そうとすることに対して断固として「ノー」と言い、苦難の現実を直視し「正しい者が苦しむのが現実だ」「なぜなんだ」と神に食い下がるのです。

ある哲学者は言いました。「苦しみそのものが問題なのではない。“何のための苦しみなのか”という叫びに答が欠けていることが問題なのだ」と。そうです、苦しみの只中であってヨブが求めたのは苦しみの意味なのでした。それについて神が答えてくれることをヨブは必死に求めたのです。

沈黙を守っていた神は嵐の中から、ついにヨブに答えます。それは論理的な答というより、事実による答でした。要約すれば、それは「神のわざを見よ」ということでした。

一見すれ違いのように見えるこの答に、しかし、ヨブは満足し、次のように告白します。「あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。」「私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。」なぜでしょうか。それは、ヨブが信仰によって見るべき「神のわざ」の中心、義なるお方であるイエス・キリストが罪なくして過酷で理不尽な十字架の苦難と死を引き受けられ、すべての人の苦しみをともに負われるということをはるかに望み見ていたからではないでしょうか。

このように『ヨブ記』は苦しみの意味を深く考えさせてくれる書なのです。苦しみという現実から目をそむけることのできない今年は秋の夜長、ひとつじっくりと『ヨブ記』を読んでみるというのはいかがでしょうか。

か。(K.K)

定期集会のご案内

(日曜日)	(水曜日)
教会学校 9:15-10:15	第一祈り会 10:00-12:00
礼拝式 10:30-11:45	第二祈り会 19:30-20:30

祈り会では聖書をわかりやすく学んでいます。初心者の方も歓迎します。